

# 四谷の

# 千枚田だより



第 251 号



## 第十三回 中部環境先進五市

### サミットin多治見

令和六年七月十二日(金)

多治見パロー文化ホール

テーマ「循環型社会に向けてのまちづくり」市民とつくる豊かな暮らしを目指して」が開催。市民団体交流会に鞍掛山麓千枚田保存会・内閣府地域活性化伝道師・新城市環境審議会委員として小山舜二が参加。【中部環境先進五市(TASKI)サミットは、環境首都コンテスト全国ネットワーク(現・環境首都創造ネットワーク)主催の「日本の環境首都コンテスト」(現在は終了)に参加していた多治見市、安城市、新城市、掛川市、飯田市の五市が連携し、平成二十二年から年一回開催。五市の市長が集い、各市の取組みの紹介や意見交換などを行うほか、市民団体の交流会(意見交換会)を行っている】

### 基調講演

「脱炭素社会・循環型社会への移行について」中部地方環境事務所伊藤藤龍一氏から、環境省の最大の課題が自然災害よりも犠牲者の多い「熱中症」対策(参考:死亡者数 令和四年 熱中症 千四百七十七人 自然災害 一十六人)であることが語られ、大きな興味を抱いた。

### 各市首長の取組み紹介

◇新城市下江市長 循環型社会の

まちづくり、多様な主体で取り組む里山の保全、地域と企業・自治体との連携をテーマに、市の八十四軒が森林に覆われ、その森林には愛知県鳥「このはづく(仏法僧)」や貴重な鳥類などが生息しており、これらの生息に配慮した森づくりを目指す。また、鳥獣害対策としてニホンジカによる幼木の被害、また林木の枝虫被害の軽減などを模索。日本の棚田百選・つなぐ棚田遺産にも選ばれている四谷の千枚田を継承していくため、地域と企業・自治体が連携して取り組んでいる。地域が地元小学校に対して行う環境学習や体験を通じて里山における生態系を学ぶ取り組みを実施。また、地元企業の社員と地域の方と共に四谷の千枚田において外来植物の伐根・駆除作業を実施している。

鳳来寺山自然科学博物館を拠点とした生物多様性活動の推進: 等々を紹介した。

◇掛川市久保田市長 ごみの減量のために「生ごみ処理機購入費補助金制度」が導入されており、電動生ごみ処理機だけでなく「キエーロ」にも購入費の1/2で上限1万円の補助金を助成。

◇安城市三星市長 プラスチックごみの回収をし、リサイクルできる仕組みをつくっている。

◇飯田市佐藤市長 「ゼロカーボンシティ宣言」をし、大学とも連携して、水と光触媒をつかったエコエネルギーの研究を含めた、様々な施策をしている。

◇多治見市高木市長 市有施設の照明の発光ダイオード(LED)化を推進、道路や公園は100%完了。土岐川観察館を自然学習の場としており、子どもから大人まで年代別の環境学習講座「エコカレッジ」を開いている。: 等々が報告された。

## 第13回中部環境先進5市(TASKI)サミットin多治見

『循環型社会に向けてのまちづくり ~市民とつくる豊かな暮らしを目指して~』



恒例として、次回開催市新城市下江市長が多治見市高木市長から「TASKIのタスキ」を引き継いだ。市民交流会: 各市市民団体が班分

け、それぞれの活動報告(各自二分)、有意義な意見交換が行われた。思えば第九回中部環境先進五市サミットin新城市は「四谷の千枚田保全活動」と題して基調講演という重責を担った思いが過ぎった。

◇海老財産区 市内鳳来西、海老、連谷小の三校は平成二十八年に閉校。体育館と運動場は市内の団体のみに解放されている。旧連谷小は公民館を柱に地域住民にグラウンドゴルフを呼び掛け、草刈りや花壇の整備を行っており、草の伸びる速さに苦慮していた矢先、海老財産区から芝刈り機(連谷・手動 海老・乗用)が供給された。林公民館館長は「これで、きれいなグラウンドが保てる」と喜んでいる。



## アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成

毎年、名古屋大学 江原教授の依頼でJICAアフリカ稲作現地研修を行っている。今年の研修者はアフリカ八か国(ブルンジ、カメルーン、マダガスカル、モザンビーク、ナイジェリア、セネガル、スーダン、ジンバブエ)で、それぞれが農業・農村開発省 農業技術学校副校長とか国立穀物研究所 米 プログラム 研究運営主任研究官とか土地・農業・水・気候・農村再定住省 稲作学者など、そうそうたる肩書きで、アフリカ諸国を代表した農学研究者でもある。研修目的は美味しい米作りの手法を学びたい一心で、連発する質問からも伺われた。①肥料 ②品種 ③農薬 ④国・県・市からの支援及び助成金は… ⑤腰は痛くならないか



等々。他に、全部の田んぼが湧き水で潤っている。天日干し、古米を地域特産品として製菓会社と製品開発一千枚田五平餅として道の駅や郵便局の宅配便で全国展開 好評である。等々。除草については、実際に田んぼに入り「はったん」を転がして見せた。質問で、なぜ「はったん」というかの問いに「一人の手では腰を曲げて草取りをしても、せいせい一反歩であるが、八倍くらい能率が上がる」と答えた。ウオーと歓声が上がると、それだけが「はったん」を手に持ち、転がしたりして、感心しきりであった。オタマジヤクシをイモリやヤマカガシが追うことで除草効果が生じる。カエルが稲に上り一日二百匹の害虫を食べれば、殺虫剤の散布量や散布回数が少なくて済む。生き物と共生した体に優しい米作りの実践。田んぼの生き物(タニシを例に)はそれぞれが食事をして排泄する…など、食物連鎖についても説いた。質疑応答の中、アフリカでも、湧き水や天日干しもあることに驚いた。

農学研究者の代表からは「一言一言が大変参考になった。国に帰り、取得した技術を糧に普及に努める。」と挨拶を頂いた。

### リアル案山子

七月十三日、今年も新しい案山子がやってきた。毎年この時期に案山子が入れ替わり、今回が八回目。作者は設楽町津具のチームTAKOで欽ちゃん香取慎吾の仮装大賞に連続出演、今年「大賞」を受賞、筋金入りだ。

今年、昭和の風景を再現。両手でウナギを捕まえたり、釣った魚を焼いたり名物の五平餅などを味わったり、沢で魚釣りをする四体。レトロでリアルな案山子は訪れる人々に癒しや愛嬌を振りまいている。

この、案山子設置については四谷の千枚田の保存継承にご尽力頂く(株)丸八製菓「八雲だんご」の心の籠った贈り物である。



一口メモ：案山子(かかし)は「嗅がす」が転じたもの、というのが通説で、嫌な臭いを発する植物などを焼いて、悪さをする動物たちに「嗅がし」、農作物を守るものが古くから行われていた。そうした事が、案山子という名に転じたと云われる。今どきの案山子は着るものも姿かたちもリアルで、野生動物たちとも仲がいい。(昨年は案山子と二ホンジカが遊んだ証拠に糞を沢山置いていた)

また、案山子男とは、地位・外見ばかりよくて、それ相応の能力のない見かけ倒しのことを言う。

## デマンドバス

豊鉄バス四谷千枚田新城線休止に伴い海老、四谷、連合地区において、デマンドバスの実証運行が行われている。利用日の前日までの予約に基づいて運行するバスで地区内の移動、地域外の指定乗車場所(静巖堂医院)への移動にも利用できる。新城や長篠方面に行くには田口新城線に乗り換える必要がある。

デマンドバスとは、決まった時刻表、ルートでの運行ではなく、事前の予約に応じて、区域の中を走るバスで、バスが安全に運行できる道であれば、自宅近くまで行くことができる。細い道も通れるように車両は五人乗りの普通乗用車で、予約状況によっては他の乗客と相乗りになることもある。

このデマンドバスに乗り、海老、四谷、連合区域内の移動が可能になった。例えば前日に予約(海老構造改善センター内)しておいて、自宅のある我が家からこのバスに乗り海老地内の宮本医院まで行き、帰りも同時に予約しておけば、自宅まで帰ることができる。

この実証運行は令和五年十月二日から令和六年九月三十日まででその後、十月一日からは他のSバスの運賃と同じ一乗車二百円となる。地域内の年寄りには有難い制度で、川壳の梅の里や千枚田散策、須山の観音様参りも大いに楽しめる。

行 令和六年七月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二